



第2回

日本遺産

北総四都市江戸紀行
佐原「江戸優り」
フォーラム

2020年

3月1日(日)

13:00～(入場無料)

会場 与倉屋大土蔵

(香取市佐原イ 1730)

13:00 開会

[第1部]

13:00～13:15 開会挨拶

13:15～14:15 基調講演

「『水都』の歴史から考える世界と日本」

陣内秀信氏(法政大学特任教授)

[第2部]

14:30～16:00

パネルディスカッション

「『水都』佐原を読み解く～テリトリーとまちづくり～」

パネリスト

福井恒明氏(法政大学エコ地域デザイン研究センター長)

酒井右二氏(伊能忠敬翁顕彰会)

関谷昇氏(千葉大学法経学部教授)

コメンテーター

陣内秀信氏

コーディネーター

小島聡氏(法政大学人間環境学部教授)



《主催》北総四都市江戸紀行活用協議会

《共催》法政大学エコ地域デザイン研究センター 法政大学江戸東京研究センター

伊能忠敬翁顕彰会 特定非営利活動法人まちおこし佐原の大祭振興協会他 特定非営利活動法人佐原アカデミア
特定非営利活動法人小野川と佐原の町並みを考える会

《協力》香取市国際交流協会 結いの会 (株)NIPPONIA SAWARA 佐原商店街連合会 佐原おかみさん会
株式会社エヌアイデイ 一般財団法人小森文化財団

《問い合わせ先》香取市教育委員会生涯学習課 0478-50-1224 佐原商工会議所 0478-54-2244

日本遺産・北総四都市江戸紀行 佐原「江戸優り」フォーラム

【第2回 佐原「江戸優り」フォーラムの趣旨】

百万都市江戸を支えた町並みとして2016年に「日本遺産」に認定された佐原は、「お江戸見たけりや 佐原にござれ 佐原本町江戸優り」と唄われたように、「江戸優り」というシビック・プライドの言葉で表現される独自の地域文化を構築しました。また、大祭により地域の絆を育みながら町衆を中心としたまちづくりを展開し、その「自治の精神」や天災に見舞われた際に私財で民を救済した伊能忠敬の地域経営の精神は、21世紀の今日まで受け継がれています。

そこで、江戸を感じる北総の町並みと文化を現代まで継承してきた水都そして商都である佐原の歴史をあらためて読み解きながら、未来志向で持続可能なまちづくりを展望するために、佐原「江戸優り」フォーラムを開催します。

第2回のフォーラムは、「水都」と「テリトリー」という言葉を手がかりとして、佐原の都市史を回顧し、また、今後のまちづくりとそのための佐原研究の可能性を考えます。「水都」は、世界のどの地域でも、川沿い、海沿いなど水の得やすいところに大半の都市が立地し、水害に立ち向かいながら、水を巧みに利用し、暮らし、舟運や経済活動が営まれ、固有の水辺の風景が生まれてきたことに着目した都市の名称です。

今回、法政大学エコ地域デザイン研究センターが、江戸・東京などの国内地域、さらにヴェネツィアをはじめとする海外の諸都市を比較するために従来から研究してきた「水都」の1つとして佐原を位置づけます。また、地形・自然、産業、文化・伝統、共同体などの総称であるイタリア語の「テリトリー」という視点で、「水都」佐原をとらえ直します。

【出演者プロフィール】



陣内 秀信 氏

法政大学特任教授。1947年福岡県生まれ。2007年から2018年まで法政大学デザイン工学部教授。ローマ大学名誉学士、アマルフィ名誉市民。ライフワークとして、イタリアを中心に、イスラム圏を含む地中海世界、東京の都市研究・調査に取り組んできた。サントリー学芸賞を受賞した『東京の空間人類学』の他、『水都ヴェネツィア その持続的発展の歴史』、『イタリア都市の空間人類学』、『建築史への挑戦 住居から都市、そしてテリトリーへ』（編著）など著書多数。



福井 恒明 氏

法政大学デザイン工学部教授、エコ地域デザイン研究センター長、江戸東京研究センター兼担研究員。専門は都市景観・景観まちづくり・社会基盤のデザイン。編著書に『景観デザイン規範事例集』『コンパクト建築設計資料集「都市再生」』『水都学V』など。千葉県流山市・東京都杉並区・千代田区などの景観行政、佐渡・四万十・柴又の文化的景観に関わる。街路イメージ形成研究の対象のひとつとして佐原の町並みを取り扱った。



酒井 右二 氏

1950年、千葉県香取市佐原に生まれる。1978年、早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。千葉県の公立高等学校、千葉県史料研究財団に在籍し、2010年佐原高校で退職。この間、佐原や千葉県を中心とした近世地域史の研究を継続。早稲田大学第二文学部非常勤講師、立教大学文学部兼任講師、国立歴史民俗博物館の共同研究員、千葉県史編さん近世史部会専門員などを歴任し、千葉県史のほか県内の自治体史の編纂にも当たっている。



関谷 昇 氏

千葉大学大学院社会科学研究院教授。古代ギリシアから現代に連なる西欧の政治思想史研究に取り組む。主に初期近代における社会契約説を研究対象とし、政治共同体・参加・連邦制・補完性原理・地域共同体の諸思想を検討しながら、個人と共同体との関係を自治の観点から解明している。また、千葉県内の多数の自治体において、市民参加・協働・自治をめぐる条例や制度・環境づくりに携わるとともに、自治のまちづくりへ向けた積極的な提言を幅広くおこなっている。



小島 聡 氏

法政大学人間環境学部教授。エコ地域デザイン研究センター兼担研究員。専門は行政学・地方自治。「地域の持続可能性」の視角から、環境政策をはじめとする自治体の多様な政策、ソーシャル・イノベーションに取り組む。著書に『フィールドから考える地域環境』（編著）、『分権時代の地方自治』（共著）など。神奈川県川崎市、長野県飯山市、山梨県小菅村をはじめとして、学部のキャリア教育を通して佐原にもコミットしている。